



床走行式リフト

『持ち上げない介護』のためのロボットは、職員の腰痛対策に役立ちます。



介護ロボットの導入

「職員の負担軽減」と「質の高いケア」を両立
スタイリッシュな介護のために

職員に特に好評なのは、ご利用者の一人ひとりの様子がわかる見守りセンサーです。深夜の巡回の際に眠りの浅い人を起こしてしまったり、ナースコールで状況がわからないまま駆けつけたリ、業務の効率化や負担軽減に頭を悩ませていました。見守りセンサーはご利用者がベッドから起き上がるなどの変化があると、タブレットやスマートフォンに通知が届き、映像で確認できます。まず駆けつけるのではなく、映像を確認してから動けるので、時間と気持ちの余裕ができました。万が一、けがにつながる事故があった場合も状況が記録に残るため、ご家族への説明に活用できる利点もあります。職業病とも言われる腰痛防止に力を発揮するのは、移乗サポートロボット、床走行式リフトです。職員が思いやりの心を持ち、ご利用者を尊重する介護で、やりがいと幸せを感じられ、心身も時間も余裕を持った対応ができるようになりました。



入浴用リフト

個浴でも安全に入浴介助ができるロボット。肩までお湯に浸かれると好評です。



見守りセンサー

職員の負担を軽減しながら、常にご利用者の安全を見守る優れたもの。



個室(1人部屋8室)

プライバシーが保たれた明るい居室です。



多床室(4人部屋19室、2人部屋2室)

プライバシーを保ちつつ、介助しやすく設計された居室です。



小学校の教室を多目的スペースに

ご利用者、地域の皆さんとの交流の場、スタッフ育成・研修の「教室」となります。



グループ回想法で楽しい会話

懐かしい品々を観て、触れて、スタッフの問いかけに、ご利用者が思い出を語り始めます。



お茶の間の再現

昭和の『我が家の風景』が広がっています。



回想法の取り組み

認知症ケアである

五感を使って思い出話に花が咲く

回想法という言葉をご存知でしょうか？懐かしい物や絵・写真を材料に会話をし、過去の楽しい体験を思い出す。そうすることで精神の安定を図るご利用者への心理療法です。脳を活性化させて、認知症の進行を抑制する効果が期待されています。「ご利用者にとって大切なこと。それはご自身が生き生きとしていた時間」。そう考えた私たちは、施設ケアの実践として回想法に取り組んでいます。安立荘のある打越地区は、かつて日本の原風景が広がっていました。回想法に取り組み私たちは安立荘のキャッチフレーズを「里山うちこし昭和の我が家」としました。この名前にはご利用者とそのご家族に対する使命に加えて、この地域に溶け込んで、貢献したいという私たちの想いが込められています。玄関ロビーに地元打越にあった駄菓子・たばこ店「もみじや」さんを再現。実際に使われていた商品ケースなども備えています。

